

病害虫防除技術情報第3号

平成24年5月2日
三重県病害虫防除所

麦類の赤かび病の発生に好適な天候が続いています
現在開花期にある圃場では早急に薬剤防除を行ってください

1 対象作物： 麦類

2 対象病害虫名： コムギ赤かび病・オオムギ赤かび病

3 開花期以降の天候状況

1) 本病は開花盛期から10日後頃までが最も感染しやすく、この時期に高温多湿の天候が続くと多発する傾向があります。

2) 本年の麦類の開花時期は平年に比べてやや遅く、11月上中旬播種の圃場から順に4月下旬以降、開花盛期を迎えています。

3) 津アメダスデータによると、4月下旬以降の天候は孢子の飛散に好適な気象条件で推移したため、この時期に開花期にあった圃場では感染の機会があったと考えられます。また週間天気予報(5月1日・名古屋地方気象台発表)によると、期間の初めは雨が降り、気温は平年並か高い予想であるため、感染および発病に好適な気象条件が今後も続く予想されます。

4 防除上の注意事項

1) 防除適期は開花始めから開花盛期です。現在開花期にある圃場では早急に薬剤防除を行ってください。チオファネートメチル水和剤では、散布から降雨までに数時間が経過すれば防除効果の低下は小さい、との知見がありますので、雨の合間を見て作業してください。

2) 開花前の薬剤防除は防除効果が劣ります。これから開花期となる圃場では開花状況を確認してから薬剤防除を行ってください。

3) 薬剤防除以降も高温多湿が続く場合は、追加防除が必要です。追加防除は薬剤防除の7~10日後が防除適期です。

4) 薬剤防除にあたっては、麦種によって使用時期や使用回数が異なることがあるため、隣接圃場への薬剤の飛散を考慮して選定してください。また追加防除を行う際は、耐性菌の発生のおそれがあるため、同一薬剤や同一系統薬剤の連用を避けてください。

5) 収穫前に赤かび病の発生状況を圃場ごとに把握し、多発により赤かび粒の混入するおそれがある圃場では、健全な圃場と仕分けして収穫および乾燥を行ってください。

6) 収穫後に粒厚選別および比重選別を併用することで、赤かび粒の混入を防止してください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。